

学生相撲の観戦者に関する研究
～学生相撲の認知度向上のために～
The study about spectator of college sumo
～For the improvement of recognition degree about college sumo～

1K03B102－8 氏名 新 夏実

指導教員 主査 原田 宗彦 先生 副査 小野沢 弘史 先生

【緒言】

相撲の起源は非常に古く、古墳時代の埴輪・須恵器・土偶にもその様子が描写されている。相撲の定義は、「廻し（まわし）」を締めただけの裸体の 2 人の競技者が素手で土俵上において勝負を争い、互いに相手を倒し合い、土俵外に出し合う格技の一種、ということになる。現在の相撲は、明治 42 年から日本の国技と言われ、日本独自の格闘技とされているが、世界史的観点から見ると、古代の世界各国で、相撲の形態によく似たスポーツが盛んに行われていた。

相撲というと年代の高いファンが多いというイメージがある。それが若貴兄弟（貴乃花光司・若乃花勝）の活躍により、一時、相撲ブームが起こった。伯父が名横綱・初代若乃花、父が名大関・初代貴ノ花という血統が、オールドファンを呼び戻すとともに、貴乃花の精悍な風貌、若乃花の人好きのする童顔は、それまで相撲に興味のなかった層の女性ファンも獲得した。

相撲には大相撲とアマチュア相撲の 2 種類がある。

大相撲とは職業的な最高位の力士たちによって商業的に行われる相撲興行及びその母体となる力士・関係者の集団・社会を指す。現在では日本相撲協会が主催するプロの相撲興行をいう。

アマチュア相撲は、日本相撲協会に所属するプロの力士ではない、一般の選手が行う相撲競技のことをいう。おおまかには、大学相撲や実業団相撲のことを指す。

昭和の半ば頃までは、アマチュアのトップクラスでも大相撲の三段目と互角、幕下には叶わないというのが定説だった。ひとつには、他のスポーツの人气が未発達であり、関取を五穀豊穡のシンボルとみる力人信仰も根強く、素質のある若者は角界で独占できていた背景がある。

輪島が学生相撲出身で初めて横綱にあがった頃から、この差は確実に縮まって来ている。それは大相撲のレベルの低下と、アマチュアの向上と、双方の見方から論じられる。

【研究目的】

本研究の目的は、学生相撲の全日本選手権に来場した観戦者を調査することにより、学生相撲の認知度を計る。そして観戦理由を明かにし、大相撲と学生相撲を比較するこ

とにより、国技である大相撲の人气に負けない様、学生相撲の人气を高めていく方法を考える事である。

【研究方法】

調査対象 全日本学生相撲選手権大会に来場した観戦者
調査日時 2006 年 11 月 4 日(土)
調査場所 両国国技館
調査技法 質問紙調査

【研究結果・考察】

観戦者について分析したが、学生選手権に来る観戦者は、の出場選手の親の世代(46－50 歳、50 歳以上)、また出場選手の友人・知り合い(21－25 歳、20 歳以下)が多かった。あまり飛び入りの観戦者がいないことから、ここからも学生相撲の認知度の低さが伺える。

観戦理由を 5 段階評価で質問したところ、「知り合いが出てくるから」という項目の平均値が 4.03 ととても高い値になった。ここから学生相撲の観戦者は、「知り合い」を応援しに来る人が多いことが分かった。また、「周囲で話題になっているから」という項目では、平均値が 2.83 という低い値になった。このことから、学生相撲は話題性が低いと、友人や知り合いに誘われないと観戦に来ないのが現状であるという事がいえる。

学生相撲の観戦者は、友人や知り合いに誘われて一緒に来るケースが多く、学生相撲を認知している人がどれだけ新規ファンを連れてくるかが今後の学生相撲の認知度を高めるカギだといえる。

【まとめ】

相撲に興味がない人にどうやって相撲の面白さを伝えるか、それはやはり一度試合を見に来てもらうことが重要である。認知度の低い学生相撲は、既存のファンが新規のファンを誘わない限り、観戦者数は増えないと考えられる。私が初めて相撲を見た時の感激を、国技である相撲の魅力を一人でも多くの人に知ってもらいたい、そういう理由から始まった本研究であったが、これを通じ、学生相撲に興味を持つ人が増え、そしてその多くの人々によって学生相撲が盛り上げていかれることを期待したい。